



11. 住み続けられるまちづくりを



JICAが供与したごみ収集車にはスーダンで人気の「キャプテン翼」のシールが貼ってあり、住民の関心を高めることに一役買っている。

民官が連携し、きれいな街を実現する

スーダンの首都ハルツームでは、先の内戦や南スーダンとの衝突により各地からたくさんの方が流入し、年々人口が増加している。当然ごみも増え、大きな問題となっている。昨年度のハルツームの廃棄物収集率は60パーセントから70パーセントと言われており、収集されなかつた多くのごみが街を汚している。廃棄物収集の確立したシステムがないこと、そして機材の不足がおもな理由である。

青年海外協力隊員としてハルツームの清掃事務局で活動している私は、職員とともに、決まった場所・時間に回収を行う日本式の廃棄物収集システムの導入を図っている。限られた機材リソースでより効率的に廃棄物を収集するためである。

しかし実現するためには住民の協力も必要不可欠である。そこで私たちは住民ボランティアを募って、彼らと協力しながら啓発活動を行っている。エリア内で起こっている問題を彼らから聞き取ったり、ミーティングを開き、今後の課題や方針などを話し合っている。現在は住民にも街をきれいにしようという意識が芽生え、決められた場所に「ごみ」が廃棄されるようになってきた。住民と事務局職員が一丸となって、きれいで住みやすい街づくりに向けて日々努力している。

今月の投稿(文と写真) 森達朗さん
2017年、JICA海外協力隊に参加。スーダンの首都ハルツームの清掃事務局で活動中。現地の清掃事務局スタッフとともに、日本式の廃棄物処理システム定着に向けての仕組み作りや住民啓発活動を行っている。

あなたの投稿をお待ちしています！

「わたしが見つけたSDGs」に写真をお寄せください。貧困や気候変動、格差ほか、いま世界が直面している課題に取り組む人々の姿など、SDGsの17の目標を身近に感じられる作品をお寄せください。
応募要項: 写真1点(ご自身が撮影されたもの)、文字原稿400字以内。
*写真内の被写体に関する肖像権、およびその他の権利は、投稿者の責任において、被写体の承諾を得るなど必要な措置をとったうえで応募ください。

ご応募・お問い合わせ先 ▶ ML_JICAPR@jica.go.jp (「mundi」編集部宛)



SDGsとは

持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)は「誰一人取り残さない」をスローガンに、格差や貧困、環境破壊など、世界が直面している問題の根本的な解決を目指す、17分野の国際目標。

持続可能な開発目標(SDGs)とJICAの取り組み
URL: <https://www.jica.go.jp/aboutoda/sdgs/>